



株式会社ファインデックス
企業紹介資料

2022年 7月1日更新

目次

■ 会社概要

■ 事業概要

- 医療システム
- オフィスシステム
- ヘルステック

■ ESG／SDGsの取り組み

会社概要

会社名	株式会社ファインデックス（英訳名 FINDEX Inc.）
代表者	代表取締役社長 相原 輝夫
本社	東京都千代田区大手町 1 丁目 7 - 2 東京サンケイビル26F
他支社・支店	四国支社 大阪支店 福岡支店 札幌支店 那覇支店 京都支店 新潟支店
子会社	フィッティングクラウド株式会社
沿革	1994年 5月 医療システム受託開発事業を株式会社化 1998年 3月 医療システムパッケージ開発及びコンサルタント業務を開始 2011年 3月 大阪証券取引所（JASDAQ市場）に株式を上場 2014年 11月 株式会社ピーエスシーから株式会社ファインデックスに社名変更 東京証券取引所市場第一部に市場変更
URL	https://findex.co.jp/
資本金	2億 5,425万円
全従業員数	285名 ※パートタイマー等11名含む

事業概要

医療システム

医療従事者の利便性向上や診療の効率化、
研究や病院経営に貢献

- ・ 診療情報の統合管理システム
- ・ オンライン診療システム
- ・ 医療ビッグデータ構築検索システム
- ・ 地域連携ソリューション

オフィスシステム

業務に合わせた運用負担のないIT推進で、
自治体などの業務効率化を支援

- ・ 公文書管理システム
- ・ 電子決裁システム
- ・ DX推進コンサルティング

ヘルステック

新しい発想と最先端の技術で、
眼疾患の早期発見やデータ取得などに挑戦

- ・ 眼科検査医療機器（視野検査）
- ・ 早期認知症診断装置開発
- ・ 乳幼児や高齢者のAIモニタリングシステム

主要製品一覧

医療システム



画像ファイリングシステム
Claio



診療記事記載システム
C-Note



紙・デジタル文書管理システム
C-Scan



診療所・単科向け
画像ファイリングシステムパッケージ
ClaioBOX



大規模医療機関向け
オンライン診療システム
On診



文書作成システム
DocuMaker



電子カルテ
REMORA



紹介情報管理システム
PDI + MoveBy



周産期システム
MapleNote



放射線情報システム
ProRad RIS



放射線画像閲覧システム
ProRad Nadia



放射線レポートシステム
ProRad RS



DocuMaker
ストレスチェックシステム

オフィスシステム



文書管理システム
DocuMaker Office



RPAツール
DigiWorker



Screen Based EAIツール
Data-Connector

ヘルステック



視線分析型視野計
GAP

医療システム事業

医療システム事業のキーポイント：大学病院への導入数

500床 以上 401施設

ユーザー数：**188施設**

100～499床 4,954 施設

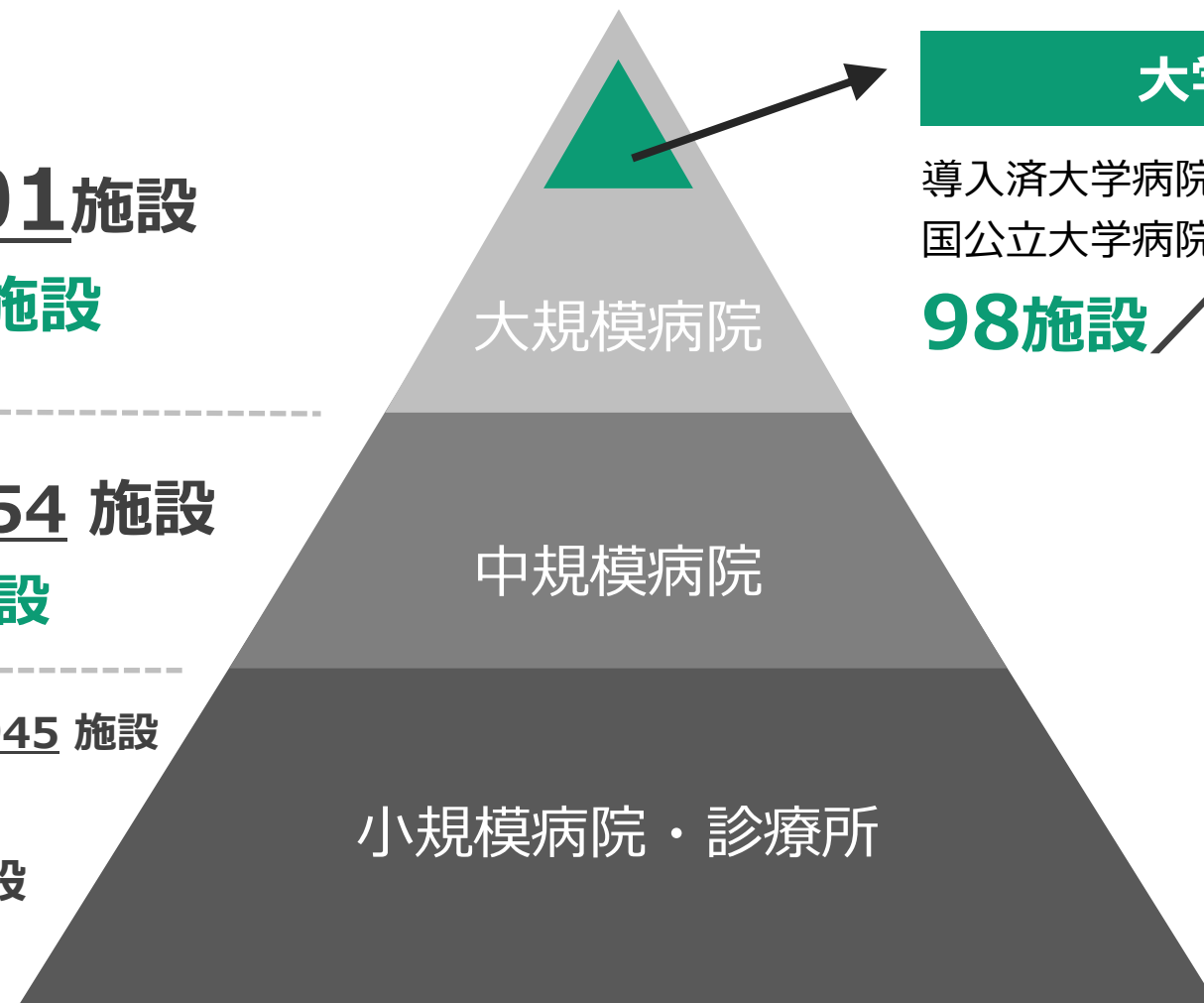
ユーザー数：**388施設**

小規模病院：20～99床 2,945 施設

ユーザー数：**81施設**

一般診療所：102,616施設

ユーザー数：**1,114施設**



大学病院

導入済大学病院数／
国公立大学病院・私立大学病院数

98施設／149施設

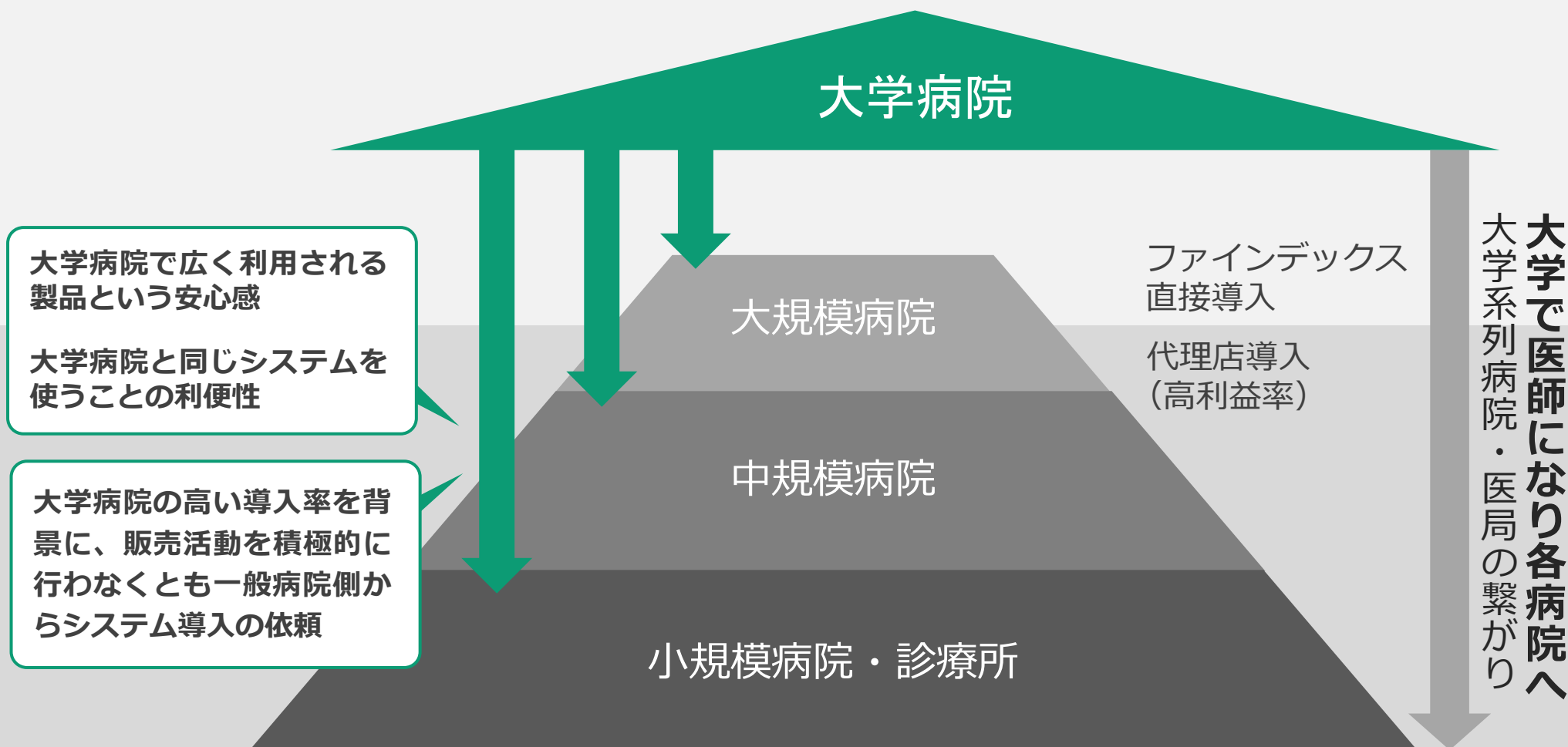
(分院含む)

※今期発表分より、売り切り製品（サポートフリー製品）を含めずにユーザー数を算出しています。

厚生労働省 令和元(2019)年医療施設（動態）調査・病院報告の概況を基に算出

(2021年12月末現在)

大学病院は最大のリードユーザー



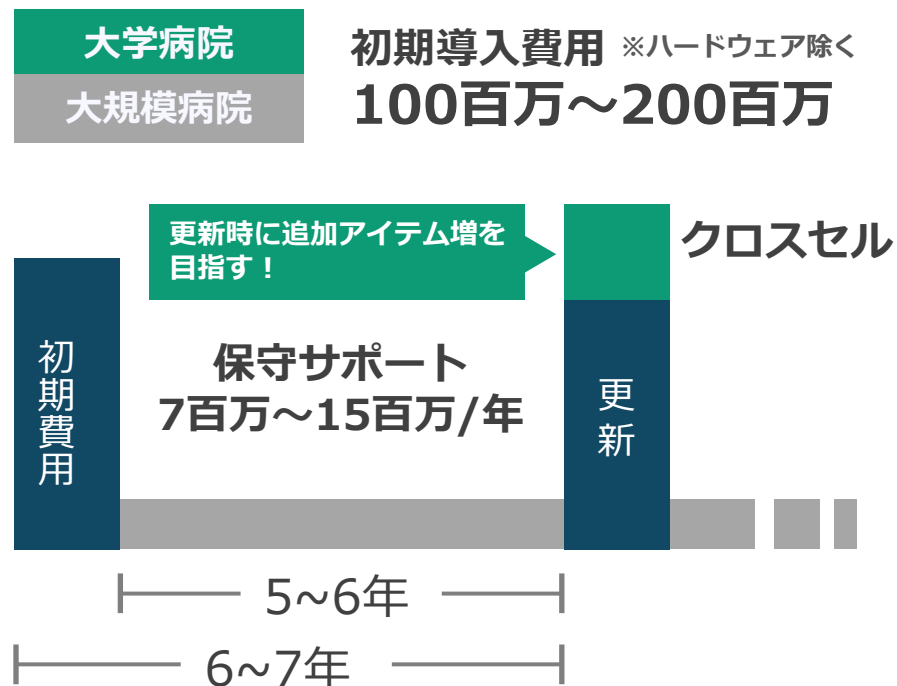
売上サイクル（イニシャル&ランニング）

医療システムは、サーバやPCの耐用年数に合わせて
5～6年サイクルで更新される

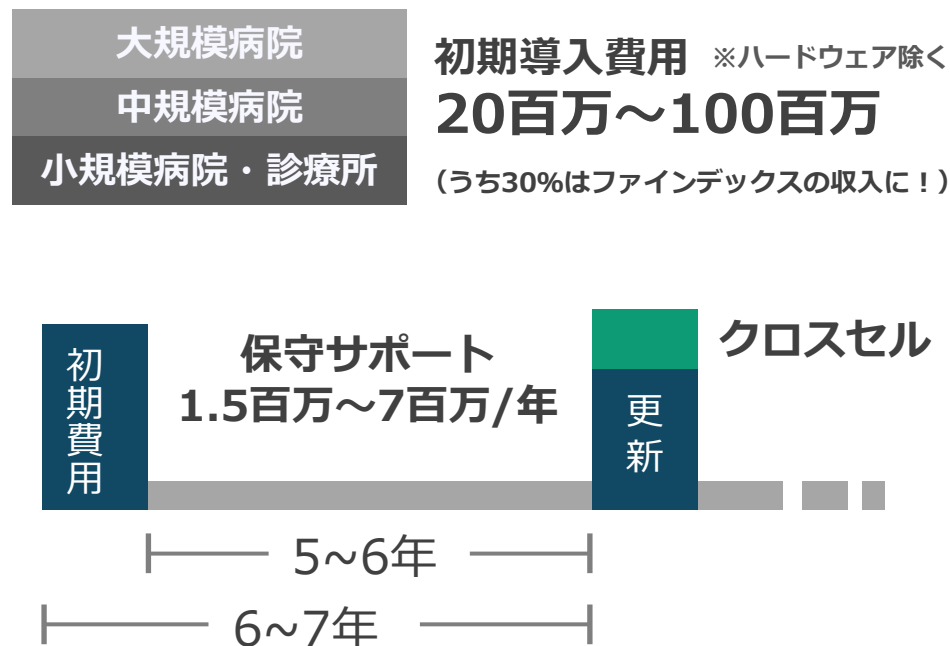
⇒近年は6～7年に更新時期を延長する施設が増加している

ファインデックスが直接販売導入

※パッケージ開発のテストベッド



代理店・アライアンスパートナーが販売導入



クロスセル戦略

検査器機ごとの買い揃えは不要
Claioのインフラ機能を共有するため安価

TOTAL **125百万円**

内視鏡システム **ソフトウェアのみ** 15百万円

産科カルテ **ソフトウェアのみ** 30百万円

眼科カルテ **ソフトウェアのみ** 30百万円

画像ファイリングシステムClaio **50百万円**

Claio ※ソフトウェア
各種検査データ管理

他システム
連携機能

Server
ストレージ

※最も基本的な各診療科の検査機器のデータファイリング

ファインデックスシステムの構成

TOTAL **190百万円**

C社 内視鏡システム 30百万円

ソフトウェア 他システム連携機能 Serverストレージ

B社 産科カルテ 80百万円

ソフトウェア 他システム連携機能 Serverストレージ

A社 眼科カルテ 80百万円

ソフトウェア 他システム連携機能 Serverストレージ

他社システムの構成

商流と業績予測方法

売上の多くを大規模導入が占める

大規模医療機関ではシステム調達規模が大きく一般に国際競争入札になる。

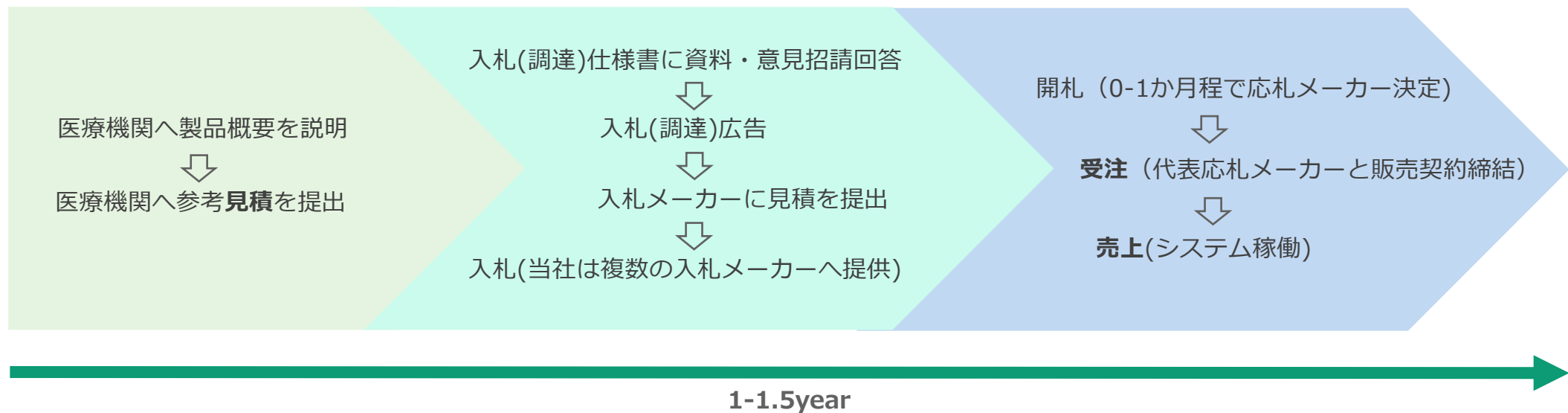
医療機関が導入を予定する種別のシステム会社には1年以上前からヒアリングが開始されることが多い。

そのためファインデックスが次年度の予測に使うのは一般的な「**受注残**」ではなく「**見積もり残**」としている。

※調達規模が小さい場合は数ヶ月で完結する場合もある。

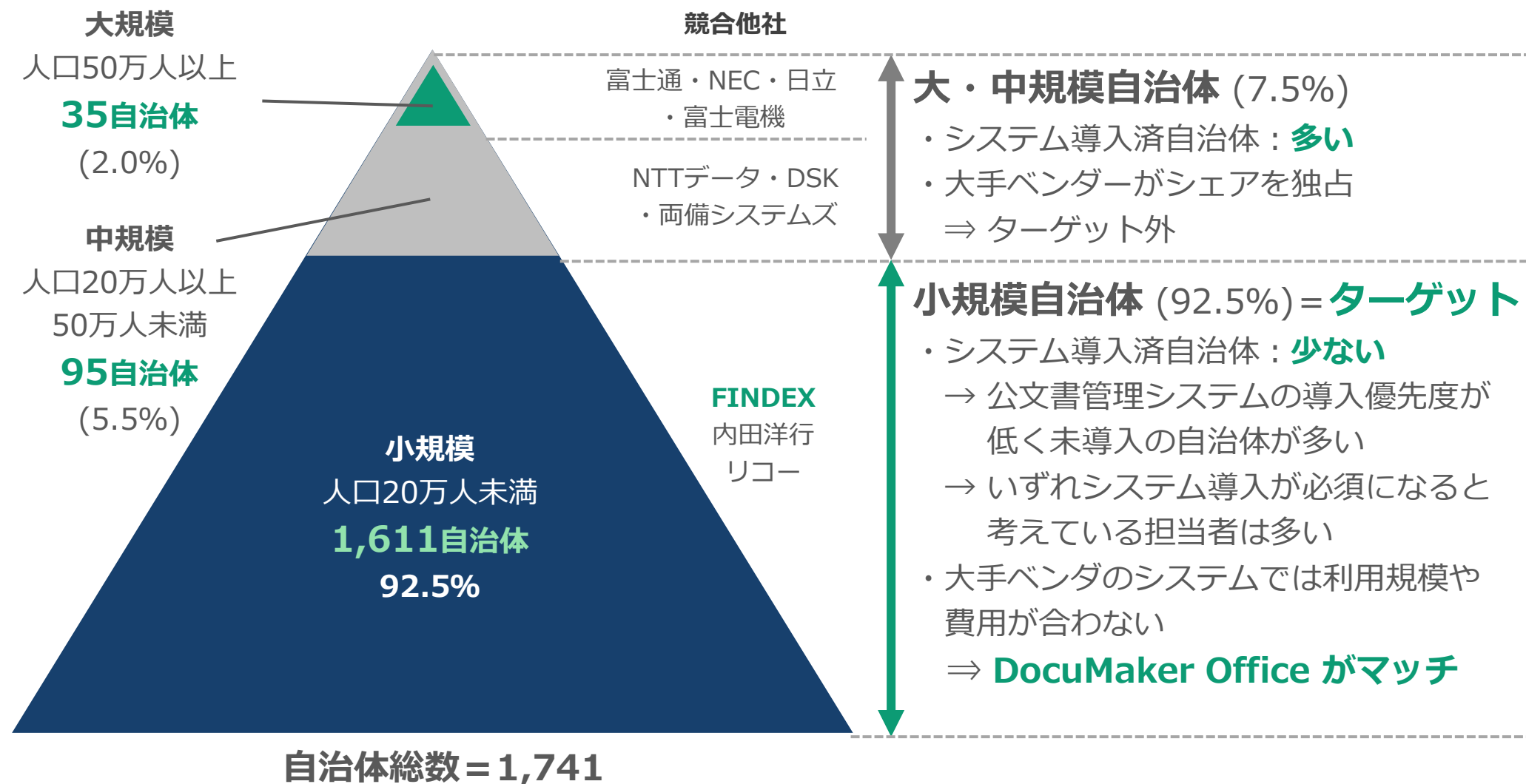
➡近年はさらに商談が長期化する傾向

医療：大規模施設の商談の流れ（例）



オフィスシステム事業

自治体ターゲット = 人口20万人程度までの自治体(1,611自治体)



DocuMaker Officeの強みが活かせる 「自治体」と「医療機関」がメインターゲットに

自治体

共済組合・公益法人等含む

- 電子決裁
(起案・収受登録など)
- 簿冊管理 など

国が電子決裁への移行を推奨
システムを導入する自治体が増加

医療領域でのノウハウを活かし
ユーザー目線に立った使いやすい
システムで他社と差別化

医療機関

診療以外の事務部門全般

- ワークフロー
- 病院機能評価対応
- 契約書管理 など

病院機能評価の要件の変更を受け
文書管理に着手する病院が増加

多くの実績を持つ診療部門での
文書管理を事務部門にも展開し
院内全体の文書管理を支援

ヘルステック事業



視野検査

新しい視野検査手法を確立し、
視野以上の早期発見を目指すと共に
ビッグデータを活用したビジネスを展開していきます。

2つの側面からビジネスを展開

視野検査機器の開発

- 世界初の測定方法を採用した視野検査機器を開発
- 医療機関に留まらず、健診施設においても検査を可能に
(検査は視能訓練士が実施)

視野疾患データの収集・分析

- 無料アプリとして配布
- 世界規模の視野疾患に関するデータを収集
- 病気予防や創薬、健康管理に活用

GAP 視線分析型視野計 の新規性

GAP	既存製品
検査機器が 自動で 「見える見えない」を判断 ➡ 間違い・思い違いがない	患者が自分の感覚で「見える」を判断 ➡ 間違い・思い違いが発生する
3分~5分 で両眼の検査が終了 ➡ 検査できる人数が増加	20分かかる場合も珍しくない ➡ 予約制で検査の管理も必要
ヘッドマウント型 ➡ 場所を選ばず 待合や健診施設でも実施可	大型の機械を暗室に設置 ➡ 設置場所は眼科に限られる
眼を動かす ことで検査を行う ➡ 少ない負担・子どもや高齢者も検査可能	眼を動かしてはいけない（要固視）検査 ➡ 大きな負担・子どもや高齢者には困難
結果は検査者の技術に頼らない ➡ 病院以外の新しい場所でも利用可能 ※1	結果は検査者の技術に依るところが大きい ➡ 視能訓練士のみが検査を実施
網膜疾患以外の病気の発見も可能 ➡ 神経疾患や認知症の研究も進行中	緑内障などの網膜疾患のみに対応 ➡ 多角的な検査は不可

※1 現在、日本国内では視能訓練士による検査が必須

GAPのマーケット概要

販売ターゲット

- ・医療機関（眼科を有する病院・クリニック）
- ・健診施設・人間ドック
- ・眼鏡チェーン店（法的整備もしくは医療機器の新カテゴリー化が必要）

国内市場サイズ※

医療機関（機器一式を販売、耐用年数5年）

約 **120 億円/5年**（医療版：GAP）

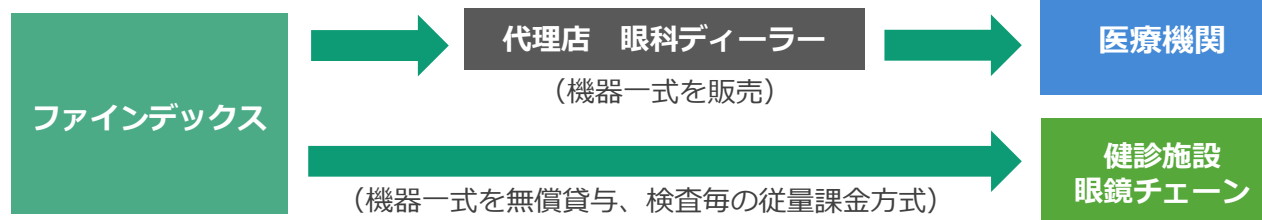
健診施設・人間ドック（機器一式を無償貸与、検査毎の従量課金方式）

約 **36 億円/5年**（健診版：GAP-Screener）

5年後の導入率を想定した売上

医療機関	30%	36 億円
健診施設	30%	5.4 億円

販売の流れ



海外の市場サイズは医療機関のみで約900億円

※ 厚生労働省 令和元(2020)年医療施設（動態）調査・病院報告の概況を基に算出

診療利用、健診利用、海外利用の3つを軸に、 機器販売とデータ利活用を推進

診療利用

医療機関への
自動視野計販売

健診利用

健診施設への
自動視野計販売

海外利用

海外への自動視野計の販売
全世界の視野疾患データ収集

- 2019年2月：**GAP-screener** 国内医療機器 届出完了・販売開始
- 2019年1月：**GAP** 国内医療機器 届出完了
- 2021年4月：国内にて**GAP**販売開始
- 2022年5月：**健診施設**への導入・**アジア**地域での販売に関し**豊田通商株式会社**と協業
- 2022年5月：**EU**地域での販売へ向けて**株式会社レクザム**と販売店契約を締結
- **国内医療機関**への販売を加速すると同時に、**北南米**の現地パートナーを検討中
- **製薬企業**や**大規模眼鏡店グループ**等とのビジネスを計画中

デバイス×AI＝ソリューション

健康保険データ分析ソリューション

- 健康保険の被保険者・被扶養者のレセプトデータおよび特定健診の結果を分析することで、地域住民の健康状態や課題の可視化

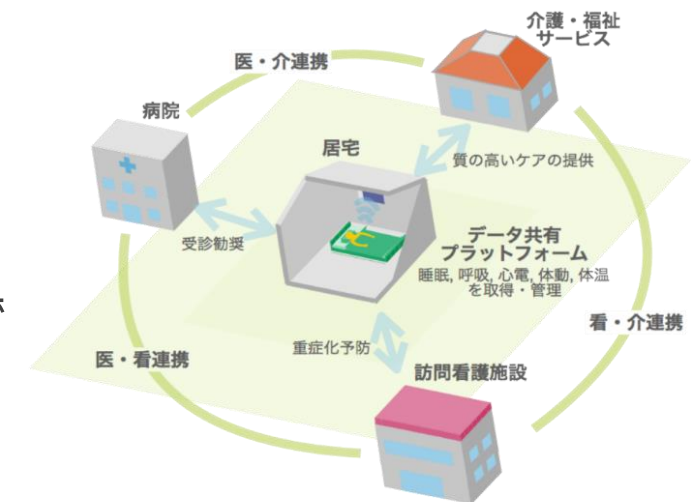
属性別疾患モデル

病態遷移予測モデル

医療費予測モデル

地域包括ケアにおける在宅促進とケア負担軽減

- 患者の身体状態管理が可能なデバイスを利用し、睡眠状態をモニタリング・分析
- 健康状態の変化やその兆候・要因を早いタイミングで把握しサービス提供者と共有



人工知能型：AF（心房細動）検知ソリューション

- 心電図のデータから人工知能によって必要な情報を抽出し、高速かつ高精度(96.6%) にAFを検知

ESG／SDGsの取り組み

当社のESG/SDGsの取り組みについて

FINDEXは

ビジネスセグメント内での取り組み



日々の取り組み

2つの側面からESG/SDGsについて取り組みを強化しています。



医療、人々の健康を支えるDX企業として、
持続可能な社会の実現に向け、長期成長を目指します。

Progressive Software Creators

Always have, Always will.

